

女川町 支援活動レポート

2013.5.02～ 2013.5.04

(宮城県牡鹿郡女川町 熊野神社大祭)



頑張ろう日本！ 頑張ろう東北！



平成25年5月12日(日)
東北被災地応援団 白金支部

女川町 支援活動レポート

このたびの東日本大震災により、亡くなられた方のご冥福を、心からお祈り申し上げるとともに、被災された皆様に対し、心からお見舞い申し上げます。被災地の日も早い復興を、心からお祈り申し上げます。

1. はじめに

この度の訪問は、「宮城県女川町復興サポート REALeYE」さんからお声がけにより、女川町熊野神社の大祭のお手伝いでお伺いさせていただきました。心の復興につながれば、と大事にされていらっしゃる伝統のお祭りです。女川町の復興を願う私共といたしましては、喜んでお引き受けさせていただきました。

2. 現在の女川町について

震災から3度目のゴールデンウィークを迎えた女川町。朝晩と、昼の寒暖差はあるものの、過ごしやすい季節となりました。町のあちらこちらが花で彩られます。そして東日本大震災で大きな被害を受けた離島、金華山(きんかざん)と女川町を結ぶ定期船が、このゴールデンウィークにようやく復活しました。定期船の運行会社「潮プランニング」さんは、社屋を流出、社員の方も犠牲になり、船も失う被害を受け、運休を余儀なくされていたそうです。どんなお気持ちでこの定期船の再開の日を迎えられたのでしょうか。再開のセレモニーでは、女川潮騒太鼓が披露され、第一便が出航となり、午前中はほぼ満席だったそうです。

金華山は島全体が黄金山(こがねやま)神社の神域で、「三年続けてお参りすれば一生お金に困ることはない」という言い伝えがあり、多くの参拝客が毎年訪れる場所だそうです。再開されつつある観光事業を軌道に乗せることも、町の復興の大事な一部分を担っているようです。



再開第一便が出航です！(女川観光協会より)



熊野神社の斜面を彩る芝桜(女川観光協会より)

3. 活動報告

今回は、初めての参加メンバー2名を含め、総勢6名での訪問となりました。男性、2名、女性4名です。男性2名は神輿の担ぎ手として、女性4名は昼食の炊き出し班です。

以下、活動について、報告させていただきます。

(1) 活動内容

- A. 活動日程 2013年5月2日(金)夜より5月4日(日)戻り
- B. 目的地 熊野神社
勤労青少年センター
- C. 活動内容 熊野神社大祭のお手伝い
 - ① 昼食の炊き出し(うどん 100食、おにぎり 100個、お新香)
 - ② 神輿の担ぎ手の派遣

(2) 活動レポート

2013年5月2日(金)

後方支援者の方による道具、食材の準備が数日前から始められ、出発の日の夜には、車への積み込みのみとなっていました。現地へ伺う機会は少なくとも、いつもと変わらないサポートをしてくださる、後方支援の方々のお力添えあって成り立つ私共の活動です。夜9時過ぎに、メンバーもそろい、積み込みも終了。見送りの方々にご挨拶、9時半の出発となりました。

2013年5月3日(土)

日付は変わり、夜も明けてきた頃、ようやく渋滞が続いた東北道に別れを告げ、三陸道にはいりました。一時は炊き出し準備に間に合わないのではないかと心配しましたが、三陸道は車もながれており、なんとか間に合いそうです。休憩もそこそこに、車を走らせ続けてくれたメンバーに感謝です。

震災から2年経った今年は、このゴールデンウィークに東北を訪ねる方が増えたそうです。東北観光を推進する行政が、「観光に来て大丈夫な地域がある」ということをメディアや、旅行博覧会などを通じてアピールし、観光客を誘致した結果でしょうか。震災前の水準とはいかないまでも、東北を訪れる方が増えることは経済的効果を考えると好ましいことだと思います。震災で多大な被害を受けた地域でも、鉄道の部分復旧や先に述べたような観光船の再開、旅館の再建などで、人を迎える準備が少しずつ進んできています。今回、私達がお世話になる女川町のトレーラーハウスの宿泊村「El falo(エルファロ)」も、津波により旅館が全壊した4人の旅館オーナーによって、震災後、昨年12月に立ち上げられた宿泊施設です。ようやく始まった嵩上げ工事ですが、平地のほとんどに建築制限があることから建築許可がなかなか下りなかったところを、移動が可能なトレーラーハウス式であれば、ということで、ようやく許可を得て開業にこぎつけたようです。

6:00

予定より大分遅れましたが、石巻に到着。コンビニエンスストアに車を止め、外に出ると肌寒い気温ですが、晴天の気持ちの良い朝です。ここで朝食をとりながら、身支度も済ませ、いよいよ女川町に入ります。

7:00

まずは高台の地域医療センター前の敷地に車を止め、そこからまたさらに200段の階段を上った所にある、熊野神社に向かいます。急な階段をなんとか上がりきると、神社前には神輿が2基そろえられ、神輿のか継ぎ手の方々が準備を進めていらっしゃいました。熊野神社は祭礼幕でつつまれ、鳥居前には神社幟旗が掲げられていました。普段はわびさびを感じさせる落ち着いた趣の神社ですが、この日はとても活気あふれる装いです。神社からご神体、御霊をお神輿に移す「御霊入れ」を行うと、神輿は不思議と重くなると聞きます。この神輿とともにこの階段を昇り降りするのは至難の業。お世話になる大祭の「氏子総代」の木村さん、今回のお祭りにお声がけいただいた「REALeYE」の高橋ご夫妻にご挨拶、そして神社にお参りをし、担ぎ手の方々の無事を祈ります。



祭りの朝。熊野神社から見える女川湾も神々しく光っています。



祭りの装いの熊野神社

8:00

炊き出しを行うのは、普段の活動の際にお世話になっている復興支援センターから程近い、勤労青少年センターの敷地になります。支援のフェーズが変わってきていることの現れでしょうか、復興支援センターはこの4月より土曜日、日曜日、祝日は、センターを閉めることになったそうです。お借りするテント、机、椅子などは、前日に軒下に出しておいてくださいました。設営資材を復興支援センターから

お借りした後は、食材の引き取りに「コンテナ村商店街」に向かいました。流水麺、おにぎりの為のお米を引き取り、勤労青少年センターに戻り設営開始です。勤労青少年センターには調理室があり、風の強い外ではなく、そちらの調理室をお借りして炊き出しの準備をすることになりました。その他、お昼の休憩場所として、センター前の敷地木 TENT を張り、椅子、机を準備します。

9:00

外の設営の準備が終り、男性メンバーの2人は神輿の担ぎ手の装いに着替えをし、熊野神社に向かいます。残った女性メンバーで炊き出しの準備を進めます。まずは、おにぎり用のご飯を炊きます。今回は梅干入りのシンプルなおにぎりと、炊き込みご飯の2種類です。炊き出しで焼き鳥を振舞われる「REALeYE」の高橋圭介さんもいらっしやって、外のTENTで焼き鳥の準備を進めます。「地元のお祭りに東京から駆けつけてくれた白金支部さんだけに昼食サービスを全ておまかせしては申し訳ない、全てはできなくとも、できるところは自分達も…」後から伺ったお話ですが、そんなお気持ちで私達と一緒に昼食サービスをさせていただきたくさうです。

12:00

センター内の集会場でも休憩される方がいらっしやるとのこと、センターの方が集会場に机を設置します。私達も机ごとに出来上がったおにぎり、後方支援の川端が用意したお新香を置いてきます。うどんの準備も整いました。外に出てみると、遠くで鳴っていたお囃子がどんどん近くなってきていました。さあ、昼食会の始まりです！



神輿が昼食の休憩場所にやってきました！



参加メンバーが全員合流できたところで、集合写真

14:00

担ぎ手の方、お囃子と獅子舞を担当されていた「まむし」のメンバーの方々、サポーターの方々、そしてお神輿と一緒に町を練り歩いてきた子供達が到着！会場は一気に人で一杯となり、目の回る忙しさです。おにぎりもうどんも、REALeYEさんが用意された焼き鳥も瞬間になくなりました。早朝から動いていた方々のお腹を満たすには、用意した量が少し足りなかったようです。氏子総代の木村さんとREALeYEさんに用意した量が足りなかったこと、お詫びをしつつ、片付けに入ります。

15:00

調理室を使わせていただいた勤労青少年センターの方にお礼をお伝えして、センターを後にし、調理班の女性4名もお神輿を追いかけ、しばしお神輿と共に町内を練り歩きます。普段の活動ではなかなか徒歩で町を歩く機会がないため、こうして女川町を歩くのは初めての経験です。「チョーサイ、チョーサイ」という掛け声と共に神輿が、熊野神社が氏神として守る地域を回り、町のあちらこちらで神輿を止め、祈りをささげます。華やかな練り歩きではありませんが、とても厳かな雰囲気、神聖な気持ちになります。

町の中心地の跡地の片隅にひっそりとお地蔵さんが佇んでいます。いつもは車でとおりすぎてしまいましたが、今回初めて手を合わせる事ができました。お地蔵さんが佇む道端には、食器の破片などが今も残っています。かつては家々が立ち並び商店があったこの場所を、お地蔵さんがやさしく見つめているように思いました。

16:00

神輿を追い掛け、再度200台の階段を上がり、熊野神社に到着です。階段下ではお囃子が続くなか、神輿は無事に神社へ収められました。神社幟旗の片付けなどのお手伝いを終えた後、氏子総代の木村さん、REALeYEさん、神社にもご挨拶をさせていただき、お暇となりました。

「El falo(エルファロ)」

清水地区仮設住宅の手前にあったガレキの集積場を通ると、ガレキがすっかりなくなっていることに気づき、嬉しい気持ちでそこを通り過ぎると仮設住宅手前にカラフルなトレーラーハウスが見えてきます。「El farlo(エルファロ)」です。受付棟とお食事棟も含め全てトレーラーハウスを利用しています。部屋番号のプレートは「希望の鐘商店街」にある「みなとまちセラミカ工房」でつくられたかわいらしいスペインタイルです。チェックインを済ませ、中に入るとトレーラーハウスとは思えないようなゆったりした作り。2ベッドルームに宿泊させていただきましたが、各部屋にはソファも置かれくつろぎのスペースも設けられています。二つあるベッドの真ん中にはカーテンも引くことができるようになっており、プライベートなスペースも作れるような仕組みです。女性らしい観点から作られたことがあちらこちらで伺えるようなお部屋で、ゆっくり休むことができました。

翌日は朝食の時間前の出発でしたが、事前からお伝えしていればおにぎりの持ち帰りのサービスなどの嬉しいサービスもあるようです。



「El falo(エルファロ)」の食堂棟



やわらかい色調の室内



部屋番号ごとにデザインが違います。



帰りの早朝。まだ寝静まる宿泊棟。

4. 活動を終えて

今回のお祭りは、震災で住民の方が減ってしまい神輿の担ぎ手が不足していたため、神社の方などがインターネットなどを通じて担ぎ手を募集したそうです。全国各地から100名のボランティアが集まり、無事にお神輿を出すことになったそうですが、「いつかは自分達だけの手でお祭りを」そんなお気持ちではないかと思います。そしていつの日か、地元の方々が担がれるお神輿を見学に、女川町を訪れる機会がくることを願わずにはられません。

5. 今後の予定

◆第三回東日本大震災チャリティーコンサート“がんばっぺ東北！” 今、我々に出来ること！

【日程】 5月25日(土) 終了

【場所】 東京都港区高輪区民ホール

第3回となりますチャリティーコンサートを開催いたしました。皆様のご協力によりたくさんの方々にご来場いただき、共に東北に心を寄せる一日を作り上げることができました。ありがとうございます。こちらのコンサートに関しましては別途レポートさせていただく予定です。

◆復興支援バスツアー in 女川町

【日程】 6月15日(土)～6月16日(日)

東北被災地応援団 白金支部、初の試みのバスツアーです。語り部さんに同乗いただいて町内をまわり、女川原発に保存されている震災当時の資料を拝見したりしながら、ご参加の皆様と震災というものを改めて振り返り、今後の支援について考えるツアーにしたいと思っております。その他、「蒲鉾本舗高政」さんの工場見学や、女川町の美味しい海の幸をいただく企画も用意しております！

◆女川町7月支援活動

【日程】 7月6日(土)～7月7日(日)

【活動内容】

清水仮設住宅及び石浜地区在宅にて、バーベキュー大会と落語のレクリエーション、「FANCEL」さんのご協力によるハンドマッサージとメイク。

6. 補足事項

(1) 参加者(敬称略/順不同)

小澤 徹	高橋 靖史	金井 見和	府川 めぐみ
安部 由美	三上 加寿子		

(2) 後方支援者(敬称略/順不同)

小澤 雅志	小澤 静子	若本 智子	川端 陽子
工藤 史大			

(3) 資材、食材等支援提供(敬称略/順不同)

株式会社 ビー・エヌ・アイ	株式会社シャーロックホームズ
---------------	----------------

(4) 支援金寄付(敬称略/順不同)

セ三味ストリート	東 和明	白金杯一同
----------	------	-------

(5) 現地受け入れ先

宮城県女川町災害復興支援センター(旧:災害ボランティアセンター) 様

宮城県女川町復興サポート REALeYE 様

皆様からの、あたたかいご支援・ご協力のうで、成り立っております。

本当にありがとうございました。

私達は、被災地への支援活動を、継続していきます。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。



平成25年5月12日

東北被災地応援団 白金支部

工藤 史大

★東北被災地応援団 白金支部 WEBサイト★

<http://www.onagawa.e-ouen.jp>

※このレポート内にあります画像の流用及び転用は、一切禁止します。

Copyright (C) 2012 Tohokuhisaichi-Ouendan All Rights Reserved.